

幸せをつくる 真鶴時間



平成28年7月、国土交通省関東運輸局の事業「関東観光まちづくりコンサルティング事業」の平成28年度重点支援地域に真鶴町が選定され、真鶴町の「観光まちづくり」について議論してきました。その結果について報告いたします。

□問い合わせ 産業観光課 観光係 ☎内線334

関東観光まちづくり コンサルティング事業

この事業は、地域の多様な関係者が協働・連携しながら、「観光を通じた地域活性化」を支援することを目的とし、大学の先生や大手旅行会社等、観光の専門知識を有するアドバイザー委員の皆様のご協力のもと、約8か月間にわたり実施してきました。

従来型の観光

今までは、「団体・宴会・周遊・イベント」といったキーワードでツアーが組まれ、真鶴町にも三ツ石などの名所・旧跡にたくさんのお客様が団体バスで観光に訪れていました。

現代型の観光

近年では、“本物”志向の消費者が多く、モノ消費からコ

ト消費へと変化しています。キーワードも「個人・体験・滞在・交流」へと移り、「今だけ・ここだけ・あなただけ」という地域の独自性にこだわったものを、お客様は求めています。

真鶴町の観光資源とは？

本事業の中に設けられた「ワーキンググループ会議（作業部会）」（以下、WG会議）では、真鶴町の良いところ・自慢できるところは何か、もう一度見直してみました。

魚？ 自然？ 海？ 町並み？・・・

どれも真鶴にとっては必要不可欠なものです。真鶴らしさを考えたときに、WG会議やアドバイザー委員の皆様からは次のような意見が出されました。

- 人と人との距離感が近い。
- 世代関係なく交流できる。
- 初めて来たのに初めて来た感じがしない。
- 観光客と住民が「共生」することでみんながハッピーになれる。
- 「暮らし」が観光に寄り添っていく時代になってきている。

自然の恵み

お林（魚付き保安林）、海、魚介類、本小松石など

真鶴ライフ

人々の営み
懐かしい街並み、変わらぬ風景、人と人の交流が盛ん、人との距離感が近い、手作りにこだわる職人がいるなど

催し

貴船まつり、真鶴なぶら市、まちなれなど

今ある“真鶴ライフ”の背景の一つに「美の基準」が大きく関わっている。

● 美の基準とは...
真鶴の人たちが築き上げてきた生活文化を“生活風景の中にある美”としてルール化したもの。

語りを持って生活している人々の姿は、観光客からは羨ましく、また来たいと思われる。

これらの意見を踏まえ、真鶴町の総合的な観光資源は「真鶴ライフ」ではないかという結論に至りました。

「自然の恵み」「人々の営み」「催し」、この3つが交わりすべてがそろったとき、すべての人に自慢ができる「真鶴ライフ」が生まれます。

その背景には、真鶴町の人たちが築き上げてきた生活の作法をルール化した「美の基

準」が大きく関わっているとも言えます。

真鶴ライフは、真鶴町に住んでいる時間が長ければ長いほど、それは当たり前になり気づきにくくなってしまいが、この真鶴ライフこそが、都会では真似できない幸せな時間なんだと再認識することができました。

グラントコンセプト

「真鶴ライフ」と言っても、形がなくどんなものか人によって認識の仕方が違うかもしれません。

そこで「真鶴町ってこんな町だよ、だから来てね」という真鶴町の暮らしを表現するグラントコンセプト【幸せをつくる真鶴時間】（表①）を、WG会議で作成しました。

住んでいる人はもちろん、観光客や仕事で訪れる人も、

真鶴町で過ごす時間は皆さんに幸せをもたらせてくれます。素朴ですが人の温かみを感じることで真鶴町の日常「真鶴ライフ」の中で、真鶴半島の自然や新鮮なお魚を楽しんでいただくことが、真鶴町の「今だけ・ここ

だけ・あなただけ」であり、自信を持って観光客の皆さんにお届けできるのではないかと考えました。

今後の取り組み

今回の事業をベースに、真鶴町の観光に関する「真鶴ラ

イフ観光デザイン協議会」を立ち上げ、真鶴ライフを軸にした真鶴町の観光をデザインしていきます。（表②）課題もたくさんあり、付加価値をつけたり目的を明確にしたり、やらなければいけないことはたくさんあります。

しかし今後は、行政・観光協会・商工会だけではなく、真鶴人（まなづるじん）がひとつになって、「小さい町だからこそできるおもてなし」を実現していきたいと思いま

幸せをつくる真鶴時間

表①

神奈川県西、ちょこんと顔を出す小さな港町、真鶴。

人々の営み

人々の営みは、昔のまんま。歴史を育み、どこか懐かしく感じる風景や町並み。人の温かみを感じられる手作りにこだわる職人さん。近所のおばちゃんも真鶴のお母さん、おじちゃんも真鶴の物知り博士。

自然の恵み

真鶴にもたらされる自然の恵み。お林の恵みを受けおいしく育った魚たち。斜面を生かして太陽をたくさん浴びた柑橘類。町の繁栄を支えてきた町並みを彩る本小松石。それは私たちにとってみんな宝物です。

催し

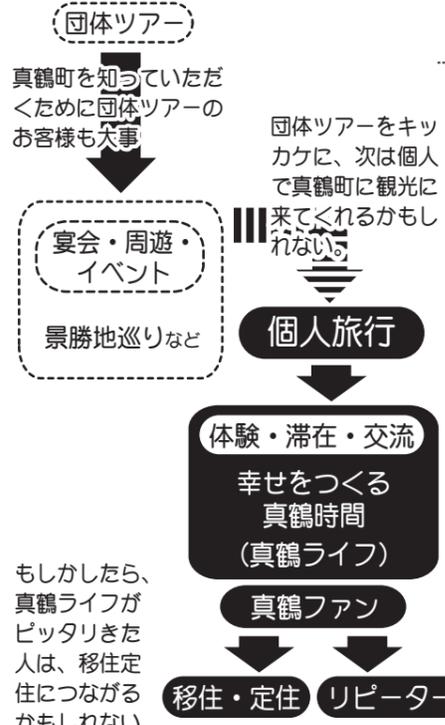
人々の営みと自然の恵みが結びつく場所。約束などしていないのに、惹きつけられたように集まる人々。伝統行事「貴船まつり」をはじめ、小さな催しもそのひとつです。

素朴ですが、ゆったりとした時間の中でホッとできる。だれでも受け入れてくれる、人のぬくもり。ちょっと町へ出ると、いつもの顔にたくさん出逢える。
” 幸せをつくる真鶴時間 ”

今後の取り組み

表②

- 平成29～30年度（短期）
 - 真鶴人づくり
 - 地域で総力を結集し、同じ思いを共有して観光まちづくりを推進
 - 平成30～31年度（中期）
 - 受け入れ体制づくり
 - 観光資源の掘り起し・改善
 - 町内の受け入れ体制をハード・ソフト共に整備し、観光交流の場づくりや特産品の開発等
 - 平成30～33年度（長期）
 - 一元的情報発信とプロモーション
 - 観光情報を一元的に集約・発信し、効果的なプロモーションの展開
- ※ 具体的な事業については、真鶴ライフ観光デザイン協議会で協議の上、決定・実施していく。



もしかしたら、真鶴ライフがピッタリきた人は、移住定住につながるかもしれない。